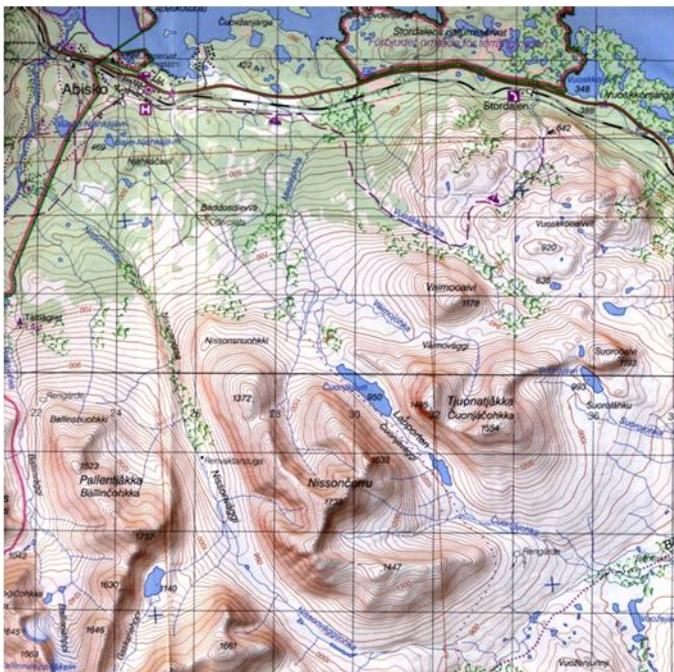


北極圏鉄道紀行 (4)

キルナからしばらく行くと、アビスコという駅の手前に、絶景ポイントがあります。このあたりのシンボリック存在 Lapporten (ラポーテン) です。地形図で見ると、北西から南東に向かって、氷河が流れたあとの、氷蝕地形とわかります。ラポーテンというのは、正確には山の名称ではなく、二つの山のコル(鞍部)の名称です。この列車は、ラポーテンの南側を東から西(地図の右から左)に走ります。ちょうど明るくなる時間帯に通過するので、左車窓にラポーテンが見えます。



「アビスコ・ラポーテン付近の地形図」 スウェーデンの官製地形図は、コンターが緻密で非常に美しい。地形の表現も正確で、いくら見ても飽きません。



予想通り、左車窓にラポーテンが見えました。北部

スウェーデンの代表的な景観です。この列車は、旅行の移動手段であると同時に、乗っただけで、美しい景観を楽しめる、観光列車でもあるのです。

ラポーテンがある「アビスコ」は、スウェーデン最北の小さな村です。しかしここは、Kungsleden (クングスレーデン「王様の散歩道」) という、スウェーデン最長の登山コースの出発点で、「アビスコ・ツーリテーション」という大きなホテルもあります。



「夏のアビスコ」 北極圏らしい雄大な景観で、多くの登山者を魅了しています。(2004年夏撮影)

そして冬には、北欧全体で見ても、最もオーロラがよく観望できる地でもあります。私は冬のアビスコに何度か滞在しましたが、いずれも、素晴らしいオーロラに出会っています。



「アビスコのオーロラ」 凍ったトーネ湖の湖上で撮影。小屋はボートハウスです。(2002年撮影)



「ラポーテンの夕暮れ」

ホテル・ラポーテン・アビスコより（2002年撮影）



「アビスコの街とオーロラ」

国道E10号線で撮影。C. Tanaka / 2002年



列車がアビスコを出発すると、人の気配から遠ざかってゆきます。いよいよスカンジナビア山脈の山岳地帯に入ってゆきます。車窓景観もいよいよ荒涼とし、トンネルが多く現れます。（つづく）